

## 平成 25 年度 第 2 回 学校協議会報告

平成 25 年 10 月 24 日 (木) 14:00 ~ 16:00 於：本校会議室

- 1 委員 学校医・産業医、企業総務部長、大学名誉教授、近隣中学校長、地元自治会長、  
私立高等学校大阪学習センター長、PTA 会長
- 2 事務局 校長、事務部長、教頭、首席、進路指導主事、各グループ長、総務部長、書記 (3 名)
- 3 議事 (1)本校教育活動の報告 (校長)  
修学旅行、国際交流、生徒の状況、ゴミの分別、メロディーチャイムについて  
(2)本校のかかえる諸課題について協議

### 4 おもな協議

#### (1)登校遅刻の改善

遅刻を減らす具体的な手段について協議した。

- ・生活指導部が定期的にキャンペーンで遅刻指導を実施する
- ・玄関横だけでなく、正門付近にも遠くから見える大時計を設置する
- ・生徒会が主体となって取り組みを行っていく
- ・結局は本人の意思次第。生活のリズムを作る家庭の協力も必要
- ・学校として取り組むとともに、長期的に家庭と協力し生徒の生活習慣の改善を図る

#### (2)学校教育自己診断

学校教育自己診断の設問項目と分析について協議した。

- ・生徒の「わからない」という解答の割合が高い
- ・質問項目が多すぎると、まともに答えようとする意欲が減退する。
- ・全体をつかみたいのか、原因を探りたいのか、求めたいデータによって設問を調整すべきだ
- ・その年度の教育的課題を捉え、工夫を凝らしたアンケートを来年度以降実施していく

#### (3)地域連携

地域に対して学校ができること、地域から学校にできることについて協議した。

- ・自治会との連携で盆踊りの提灯作り
- ・生徒に着付けや茶道を教えるなど地域の方のボランティア活動の場として学校を開放できないか
- ・地域の人にとって学校は敷居が高い。その敷居を下げるためにも学校がもっと地域協議会などに参加するべき。
- ・地域だけでなく企業の社会貢献活動を活用するののも一つの方法。
- ・震災をきっかけに離れた場所の地域にも貢献できたという他校の例がある。
- ・近隣には独居のお年寄りが多数おられ、その方たちへの生きがい作りが地域貢献になる。